

ファミリー・サポート・センター事業について

Q ファミリー・サポート・センター事業について、市はどのようにお考えでしょうか。

戸川須美子議員
よう環境を整備するものだと思います。

A ファミリー・サポート・センター事業は、平成6年度から「仕事と育児の両立支援特別事業」としてスタートしたもので、市町村または公益法人等が「育児の援助を受けたい者」と「育児の援助を行いたい者」からなる会員組織を設立し、その会員が行う育児に関する相互援助活動を支援することにより、仕事と育児の両立ができる

本市といたしましては、平成17年度に設置する駅前保育ステーションの多様な保育サービス事業の一環として位置付けてまいりたいと考えております。

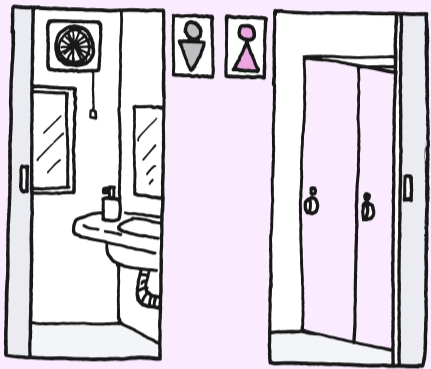


小中学校のトイレの整備について

Q 小中学校のトイレの洋式便座の設置割合と、換気扇の整備状況についてお尋ねいたします。

A 現在の洋式便座の設置状況は、小学校27・5%、中学校36%、今後も各トイレに最低1ヶ所ずつ洋式便座を設置してまいります。

なお、換気扇の未設置校の、八條北小学校と大原中学校につきましては、早急に設置したいと思っております。



森下純三議員

公共下水道について

Q 南北の京成地区は三郷市と三郷市に分かれており、八潮市には一体の分譲住宅地であり戸ヶ崎が公共下水道を利用出来れば、八潮市は利用出来ないのかと市民の方は、行政の遅れを指摘します。そこで、大瀬・古新田区画整理地内はどの位工事が進んだら公共下水道事業が始まるのかお尋ねします。

近藤晶作議員
水元に向かい、県道に、すでに出来ている管渠に接続して京成南地区に隣接する戸ヶ崎の汚水処理の為に、今年度から整備しているとのこと。

A 現在、戸ヶ崎五丁目付近において三郷市が行っている工事は、本市からの汚水の流入を計画している管渠とはルールが異なり、戸ヶ崎交差点から

区画整理地内の下水道整備は街路築造と密接な関係にあります。下水道整備の着手時期につきましては、街路築造率が70パーセント位に達した時点で一つの大きな目安となっております。ご理解を賜りますようお願い致します。

住みよい住環境について

Q 潮止中学校近隣の方268名から「太田油脂産業の業務改善を求める要望書」が提出されました。太田油脂は平成14年6月に区画整理で坊地区から古新田南部配水場の隣りに移転してきました。会社が移転して7ヶ月ほどで、すでに近隣の方から「このままでは、ここに住み続けられない」と次の要望が出されました。①休日夜間の騒音を出さないこと。②肉類の入れ物に蓋をかけ、カラスの群れが集中することによる糞害や庭木荒らし、ペットとのトラブルを避ける努力をすること。

池谷和代議員
③市道を会社の作業場にして油で汚すことにより通行の妨げをしないこと。④近隣の空き地に会社の物を置かないこと等、切実なものです。会社に対し、今後の市の対応をお聞かせ下さい。

A 移転先で新たに市公害条例に基づき特定工場等設置許可申請の提出を同社に求め工場内外の清掃を行う事項を盛り込んだ公害防止協定を締結してあります。今後も公害防止と地域の生活環境保全について働きかけてまいります。

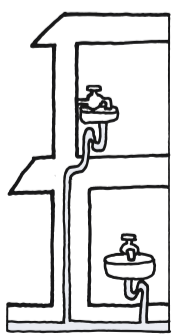
水道行政について

Q ①配水管の接続や漏水などで修理した際、その周辺で赤水が出て困るという市民の苦情があり、その対応策について、赤水を最小限にするには、どのような方法がありますか。②本市と草加市、三郷市等と工事の方法の違いがあるのかお尋ねします。

豊田吉雄議員
定期的な老朽管の布設替えが最も効果的な対策です。

A ①赤水は、配水管の内面に付着した赤錆が、水圧や流速等の変化により剥がれ、濁り水となって発生します。このため配水管の接続や漏水修理の際には、赤水の発生に充分注意しながら工事を行っています。

②工事の方法については、草加市、三郷市も本市と基本的には同様ですが、草加市は配水管の更新事業が進んでおり、赤水の原因となる老朽管が少なく、本市と三郷市は、石綿管等の老朽管の更新が課題です。



合併について

Q 市の実施した合併アンケート調査で、メリット・デメリットの情報が欲しいとのことですが、今後どのような対応を考えていますか。

鹿野泰司議員
は、分かりやすく市民にお示しできるように考えていきたいと存じます。

A 提案のあった実際の合併事例を研究し紹介する、あるいはシンポジウムの開催などは有効な手法の一つと理解しております。

市は、これまで広報紙での情報提供や合併講演会を開催してきました。さらに、埼玉県東南部都市連絡調整会議において「合併に関する調査研究」を実施していますが、結果について

